

平成 26 年 3 月 10 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

「GL は危機をチャンスに変える」
～ファイナンス事業子会社プレスリリースより～

当社の連結子会社で東南アジアにおいてファイナンス事業を展開する Group Lease PCL. (以下、G L) は、投資家向けにタイ語及び英語でニュースリリースを発表しております。下記に日本語にてご紹介いたします。

記

【G L プレスリリース : Group Lease Turning Crisis into Opportunity より】

政治的な衝突の影響から経済が停滞している中、SET 上場企業でオートバイリース事業を行う Group Lease PCL (G L 社) は、カンボジアで着実な事業の成長を推し進めつつ、タイでは現行業務を強化することにより、危機的状況を機会に変える高度な事業戦略を開始する。

「G L は現在の調整期間が終了すれば高い収益性が戻ってきます。」と G L 社会長の此下益司氏は宣言する。タイの経済状況が年半ばまでに通常に戻れば、同社の 2014 年の業績は、2013 年よりもはるかによくなるであろう。

G L 社の直近 2013 年の純利益は、240.31 百万バーツであり、残念ながら 2012 年の純利益 357.38 百万バーツよりも 32.75%減少した。利益減少の主な要因として 2012 年より 45.25 百万バーツ増加し、343.64 百万バーツと非常に大きく増加した貸倒引当金が増えられた。

此下氏は、2013 年この増加した引当金に関して、最終的には良い結果にすることができると捉えている。「我々は引当金基準を厳格にし、堅実な財務ルールに従っています。引当金額が非常に大きくなっているのは、支払遅延回数に基づいて引当金を計上したからです。しかし、我々のお客様は仕事を失ったわけではなく、残業がなくなり、月々の支払が期日に遅れているだけです。」また「ということは、一度経済が回復すれば、その支払いが遅延している顧客は通常通りの返済に復帰され、その場合には不要になった引当金については利益として戻される可能性があります。」

消費者信頼指数の低下やコメ政策の失敗など多数の不利な経済的要因で、G L の月間売上が約一ヶ月あたり 7000 台に低下した。経営陣はこの落ち着いた期間を利用し、特に当社主要顧客ベースとなる工業団地の従業員がいる東部地域にディーラーのネットワークを強化し、広げている。これらにより、月間売上は年末に 10,000 台へ上昇する見込みである。

今回の経済減速に関わらず、G L のポートフォリオ残高合計は 2012 年末の 33 億バーツから 2013 年末に 45%増の 48 億バーツになった。これは近年積極的な売上成長の蓄積の賜物である。合計ポートフォリオは今年末に 60 億バーツに増加する見込みである。

タイ事業の現業務を強化する一方、カンボジアにある GLF の新規事業は満足できる成長をしている。此下氏は、「カンボジアの G L の完全子会社 (GL Finance, GLF) は保守的な戦略を実行しており、そのことで堅実かつ着実な成長を最小の不良債権で実現しています」と述べた。

現在 1000 台の月間売上は 4 月のソクラーンまでに 2000 台に上昇し、今年末には更に 3000 - 4000 台に増加する見込みである。現在のポートフォリオ残高合計は約 5000 台にあり (損益分岐点)、不良債権はたったの 0.5% である。

「今カンボジア事業は損益分岐点に到達したところであり、今後の商売は利益になることを意味しています」と此下氏は述べた。カンボジアのポートフォリオは 2014 年末に 20000 - 25000 になる見込みであり、カンボジア事業は今年 G L 連結利益の 20% に貢献すると予想されている。

以 上

※ニュースリリースの原文は G L 社ウェブサイト (<http://www.grouplease.co.th/investor/>) でご確認いただけます。